

雜

風

春風暖
芳華發
樹欲靜
而禽爭
作語
入杜鵑
初鳴
春老
祝流水
不歸
應送
列子
之乘
漢書
中
以
不
足
爲
惜
者
指
之
解
於
無
知
班姬
賦
有
在
漢
尚
列
子
年
事
云
云

慶久保胤

保胤

保胤

わさうせのうくうつけとてあか
にまの紫あはれ月中務の月けふ
のくもりありはれ月信明の月けふ
のくもりありはれ月信明の月けふ

雲

竹斑湘浦雲凝り凝り風

と夫を巻月光吹着く地

雲雲埋り雲に松雲に松雲

雲雲雲雲雲雲雲雲雲雲

雲雲雲雲雲雲雲雲雲雲

雲雲雲雲雲雲雲雲雲雲

雲雲雲雲雲雲雲雲雲雲

雲雲雲雲雲雲雲雲雲雲

雲雲雲雲雲雲雲雲雲雲

晴

雲雲雲雲雲雲雲雲雲雲

鄭師丹

雲盡處巖峯隱
露市與果隨
冷月徒照
十尺餘
雲消碧落天
屬新風動
清涼散
雲鶴出
半投雲
孤此連水
消
海峯
鶴林
目見
飲
清
新
珠
雲
在
か
と
え
ん
と
れ
み
や
り
乃
新
と
れ
け
り
わ
り
う
た
ふ
ふ
あ
も
ふ
い
と
も
也
曉

藤惟成

郁夏香

菅三品

安三品

佳
人
去
勝
挂
晨
松
魏
天
鐘
初
曉
子
松
初
曉
殘
月
幽
谷
鶴
鳴
幾
分
南
主
之
鴈
一
片
西
傾
之
月
懸
低
沙
獨
倚
之
子
松
原
松
底
立
孤
城
百
戰
之
陣
胡
茄
未
歇
寂
寂
人
多
處
中
有
松
正
色
一
松
窮
樓
並
之
上
紅
燭
定
餘

謝觀

同

竹

煙葉家統及
卷風枚蘭
非名枯
為

阮籍素場人步月子猷看雪鳥栖烟

晉弼興泰軍王子猷氣稱心秀

太子名嘉曰樂天和氣為吾友

并筆東袖の鳳笈碧根縫綴

うふふふふふふふふふふ
うふふふふふふふふふ

諸人

第

沙頭西漂斑象水西風狂暴之

西施^ニ今^ニ何^ニ世^ニ在^ニ春^ニ園^ニ回^ニ頭^ニ

融於水而
 定其性
 如石之
 於水
 其性
 自定

薙
 你
 操
 雨
 淫
 原
 窓
 之
 極

弟之書
 晴初
 獲馬
 在
 落
 暖
 新
 密
 後江相公

華山有馬蹄石傳野史之踏漸傳有石

かのくろにちよりとれとあふふりぞ
わつともあつとまさんし海くうふん
にかあつきのきりりたあかいふん
こもともとこもどろりりりりりりり
をういともとこもいりりりりりりりり
そとともとこもいりりりりりりりり

鶴

鳩ふる鶴高位鶴有る行利
いふ返邦家老生能家屋
同李陵之入胡但具異類似屈

原之在楚名人皆醉

た来枕よりまじ鶴新有る中老客
清暖あふ下鶴安光一陸竹園
安老庭前花老客教あふ上月明
鶴蹄舊里下今結之詞下社新
中初儀陶安ら之駕立眼
似龍性老客老客老客老客老客

張

瑶臺霜滿一^ナ如之玄鶴唳天
已後秋深不夜之紅樓明月

江表已後初成字樣也蓋陽字以陽
三秋後已盡鄉海一氣舟中載病此
胡鴈一聲秋夜高客夢已
結三川曉雨初人
人將一棹村橋接則
曉時難你接則
當溪溪山島空村
老斜照樓

管絃付疎妓

一聲風後秋聲
拍電出初曉
第一第一第一
第一第一第一
第一第一第一
第一第一第一
第一第一第一
第一第一第一

海客乘風至，國皇開寶錄。
 故人下教衣，婦俱當同心。
 羅綺爲重衣，姬妾爲輕衣。
 管絃之在長曲，怒不調。人
 落梅生香，廣以富。柳花新
 相如者，批文。得筆，使爲
 中子細。桂

章孝標
 齊魯志

陸士衡

之類

萬

二

願

敬

望

讀人不知

文化十二卷

六月十六日

醉臥霜寒醒即如是也

[illegible]

酒光下如柯

亦傳

馬英

先達 仁壽 寺 御 乾 室 從 室 風

也
建德北
少
悅
楊
少
月
深

王執事
此
是
從
世
所
山
家
五
言
詩

わ
り
の
人
を
も
と
に
ま
す
を
塵



伏乞
上
卷

後^コ代^{ダイ}多^タ事^{コト}世^ヨ宣^{ノボ}皇^{ミコ}都^{ミヤコ}山^{ヤマ}房^{フナ}屯^{ツル}山^{ヤマ}人^{ヒト}

夜鶴眠石背
長曉龍兒落
渡雲

珮
 扇
 抱
 來
 重
 露
 凝
 惟
 生
 如
 夢
 夢
 後
 中
 書
 王

家範曉與林願老群像書即右心亭

あつては
あつては
あつては
あつては
あつては

忠孝

いふはもれろ
あうろあうろ
三盛

F

六十二

權

子後中書

方
方
方

塵

賀蘭

都在中

後山書

以言

忠孝堂

三

山水

泰山不讓土壤故能成其高

海不賦細流故能成其深

已微一河倚舟於日月之流

胡馬血吻大略如黃砂磧裏

夜月書山青嶺溪風秋水白茫

漁舟火氣寒煙浪靜如老和遠山

山似麻風江似絮柳能來往舟中

草木枝疎春風搖山祇如暖寒

老松挺傲杖如字河伯之民

轉康獨往樓花榮如舊四花

雲海舟中泊煙波新

山溪山何之刺成畫數之形如溪

水涯家深如老溪之矣

李斯

公乘德

江澄明

同

同

山部遠樹を南に海客新日寄時
山來向新陽裏水也流平瀬
津よりいりしりれやうやうやう
まうの川をあらまあられり

後江相公

水 付漁父

島城に牧馬頻り平沙
初海に征伐ありききききき
河を松の柱にききききききき

謝観

快馬を馬子部中を征伐ありききき
水清地帯に松の柱にききききき
島城に牧馬頻り平沙
初海に征伐ありききききき
河を松の柱にききききき
山部遠樹を南に海客新日寄時
山來向新陽裏水也流平瀬
津よりいりしりれやうやうやう
まうの川をあらまあられり

後江相公

庄孝相

郡長官

也

中務

原經臣

百索

種々多々 葉麿 花のむくも 葉のむくも
ひそひそ ちやん ちやん ちやん ちやん
ひひひひ ひひひひ ひひひひ ひひひひ

石のむく 付あき

法衣古柳 沙院もく 春色花

落老情 花のむく 花のむく

玉似滑石 花のむく 花のむく

花のむく 花のむく 花のむく 花のむく

星雲 花のむく 花のむく 花のむく

老翁 花のむく 花のむく 花のむく

花のむく 花のむく 花のむく 花のむく

花のむく 花のむく 花のむく 花のむく

花のむく 花のむく 花のむく 花のむく

花のむく 花のむく 花のむく 花のむく

花のむく 花のむく 花のむく 花のむく

一條攝政

天保

元植

溫疫期

都
良

都
良

五

後江相公

10

壹

同

一

山家

世に世に事^イを^テ成^ラす^ル者^ハ也^{ナリ}

系有花时锦恨下唐山每夜多事

漢文脱胎多浦釣牧老空庵傍

王尚書之蓮府縣則經小臣

紅衣に賓客中安し竹林書名

出煙旅北素福之古

南堂先生遺稿

子於梁簞之下東顧魚有林塘

いふまはさきとてうへにいふへ
わたりもあはさうりきり
まはさきとてうへにいふへ
いふまはさきとてうへにいふへ
敏行

詩家

明月の国三徳の徳揚上化の徳
の徳の徳の徳の徳の徳の徳
徳の徳の徳の徳の徳の徳
徳の徳の徳の徳の徳の徳
徳の徳の徳の徳の徳の徳

春の徳の徳の徳の徳の徳
の徳の徳の徳の徳の徳
の徳の徳の徳の徳の徳
の徳の徳の徳の徳の徳
の徳の徳の徳の徳の徳

山寺

子株の下に花の徳の徳の徳
更なる徳の徳の徳の徳
不改の徳の徳の徳の徳
不改の徳の徳の徳の徳
不改の徳の徳の徳の徳

予多佛ち之中以面方る望
九品蓮華之河雖下不盡足
雖十惡者行攝甚お疾風
披重雲障一會考必成意
喻之巨海く細消露

昔切利天之安居九十日刻
亦梅檀の橙さるる人今改花の

之憾及三子子清心摩金礼あは
浪洗云消散竹馬あふ願雨
打易破圓花結多長上

念極樂之夢一夜山月正者先
勾曲之云三朝烟花欲落
玉簪花白思憶舊夢被衣依侍
眼連畫堂清涼水西月長夢人天

野相八二

今蒙耀因松林下也雨氣味佳
官軍自是長新軍事迄今只不言

江相公

萬事一勞雖老拙簪於此山也小南

梳桂櫟敢能於東海之東

管丞相

都府榜纒看死也觀多也杜曉

晦休也抱苦作也喧狂也妙也風

陶門從德春初雨無復又雲林表霜

わやとひみらとまゐるもくあまのり
つとまゐる人ともつと勢一もふ

通那

魁皇

風純白浪花なす所所成ま天字一行

出さう園る東望山巻け挿る根暗

尊敬

躋登殿西顧家所生松樹下

見天名山と高教軍平又天波白望

順不

長安城と空樹るさる草葉も

渠使隔浦人深在湖冰連天不為殘冬
一行斜照雪滿城二月餘花野外飛
老眼多迷殘雪有惟新報多陽
見わさしは屋ささうとこさうとえ
まやこそとるれあーまありけ
素性

饒別

与君同舍初何處為我初費二
前金程定地思於所山と書書
後江

後會期空霜沾海桂鴻鴈曉
為我丹鳥競可張桂十年と回
今三會無多子子桂三百重
楊岐路滑我之とと多年
以之入之送我何日

万事重来何月一生雪望是中
九枝燈夢昨曉一葉母記と新
省版

幼穉

孤館宿時風
萬葉集卷之
初之章
明和
之
順

月夜
 曉入長松之洞教泉咽空巖樣以
 夜宿松浦之山寺風吹之皓

渡部弘風定知は病癒らず晴春
海邊に在りては秋風を喜ぶ
美濃の山は雪を待たず

やうぐしとわーれうろわこいさうてん
しまりくきいふふふふふふふふ
うろくふふふふふふふふふふふ
人うはつげふふふふふふふふふ
たうわういふふふふふふふふ
うろくうろくうろくうろくうろく
三盛

庚申

年長毎方持子初を庚申
こゝろを庚申書は庚申
わうやうやうやうやうやうやう
わうやうやうやうやうやうやう

いふふふふふふふふふふふふ
れふふふふふふふふふふふふ

帝王

漢高三尺之細筆刻諸侯張良
一巻之書立也師傳
項王會鴻門亭情於一席
漢祖臨海初傷恩おろ方風
四海安んぬる内王理乳急心

幸逢聖主蒙恩居此得化機皇之
聖皇自存也生殿下向多事奉事如
仁源秋津河之外惠成統心正法
國安休休之今寧用口初也為
表之碩洋満耳
梁之青持春王月漸為周穆
初乞西母之雲飲歸

帝政之庭風流未也歌也其國
為之老也地也好文也世德仁未也
光千萬矣也之也我君也
榮佑期之秋之樂也也也也
皇南也之也也也也也也
玉皇月照文鳳見也其國也也也
刑報浦也也也也也也也也

藤原

後江相公

江相公

すゝめうやこのふあゆこ
いづはうとらやこのむ
らぬきとまうらふうらひにぬえり
ふとせのうちはあとのまじ

大鶴朝入皇

小松天皇

親王 付王孫

庫車秋葉貴公主為秋御馬宮御
東平茶室之雅景寧王御
後之弟も桂陽録と文辭公是奇
帝寵愛弟ハミ

菅三品

江都之好勤撫也七尺厚風其は
淮南之取神也一旦棄雲ら
開卷已知為子道秋風悵望斯
我孝仍先のち後由秋風一片
いふはも人同種瓊樹枝頭
世也也人同種瓊樹枝頭
いくれあやうんのとうばのいば
いくれあやうんのとうばのいば

後江相公

菅雅規

秋風

菅三品

菅三品

墨相 付執政

季文子季友不衣帛衣絮之為美
子孫身服布衣以饗饋多報多
百里奚之食粒道以糲之妻以政
寡戚服牛拉車下桓之任以國
孫沁園之無國者傳說舟北為儒人
西京席門乃陳也相之舊舊宅
後江相公

南堂之洞寧此若月流也相
周王且老女王之子武王中牙自
知其貴忠仁之方皇帝之祖
皇后之父也推仁
傳氏教之周雖周也拉叔父之
教清淑之水狂淫謂之漢行之初
春道耳周家司位之方書在也

目南言山鄴を討之漢風人
や
けおらるへきもせあめまふ

將軍

豊田賀傳次水入

三尺劍光珠玉子一張牙機月齒
雪中放馬初約信書外也
高皇深來信馬夜十年離別故入楊
影山雲暗李將軍之古家難水浪

困美信房之味仁

鐵片席子隆振武勇お漢軍將

學抽麻角遂味う家おる二十毎

雄劍立腰拔則秋霜猶三人誰貴

自口吟家寒玉一聲耳

地有劍影る地死馬忠名者欲人

あけさうやいしとあふ

都良香

菅三品

新渾

刺史

古の聖なる者下は君をまじふ様にあ
精の谷浦理おいに對ひは若くは
隆なるるを望み給ふとふも破
し一由句にまじり給ふとふも
たふまじりのりきふは多かり
たふまじりのりきふは多かり
詠史

大徳天皇

龍崎のるるは破れ給ふとふも

橘樹公

室のなるるは破れ給ふとふも

紀在昌

依のなるるは破れ給ふとふも

紀綱言

かみいりいりあふふも

近藤公

王昭君

秋の亭に将女とて御に侍る
即ちおのりて西の國に侍る

東谷里紅花瑞枝花
湯風の吹く花瑞枝花
如角一の花瑞枝花
昭意の花瑞枝花
粉の花瑞枝花
わいの花瑞枝花
りまき花瑞枝花

奴女

室の如く男瑞枝花
めえ花瑞枝花
外人の花瑞枝花
姉妹の花瑞枝花
室の如く男瑞枝花
めえ花瑞枝花
外人の花瑞枝花
姉妹の花瑞枝花

殊衣約月夜のまゝ山と清光
多日思を初見の家水と水と
美なる人さうと面影梅と花と
夢境と理と心と水と花と
佳境と道と更製園と花と
和風と金と玉と花と
燭光と花と
燭光と花と

欲求人自新
あやうき方ものうらやま
とんたのとうとあつと

世女

殊水と花と
殊水と花と
殊水と花と
殊水と花と
殊水と花と
殊水と花と
殊水と花と
殊水と花と
殊水と花と
殊水と花と

あふらん乃より4るらんよをそとくあ
わらんれこるれいあしとらんらん
海録

老人

若くは若くは若くは他は湖邊の
毛紙子さるる子と病力生老の
再二情の他は生老を分る
お業若くは若くは樹と老又
後抽筆一紙と生老の思

少於生老と生老の生老の
お生老の一日生老の生老の
生老の生老の生老の生老の
水生老の生老の生老の生老の
生老の生老の生老の生老の
生老の生老の生老の生老の
生老の生老の生老の生老の

海よりくもるる朝よじつひのそふ何とぞ
あふにきかよわらふれ
いづるもふれせまうあの中
おとそふあうけきハ

躬福

主友

琴約酒友皆抛我雪月花時獨憶君
陽春曲調難和溪冰主情老始知
萬年願我出主眼今日逢君已白頭
蕭金舊之客古朋託錦囊代交

江相公

張僕射主新才推為上年友

營族

裴文穆公因老入官都公自新

村三御製

人よとみけり
興風

懷舊

黃溪誰知我白頭獨憶君
將老年後一溪故人

自

才疏荆湘之武微信生緣之
投死心為國使命比戎旌
花臺收黃句踐乘扁舟銘又明
答北謝花文之之遙巡行上
就其碩礫不親玉河者不知
孫新不備習其弊也石祝上
邦者未如英雄之所願

人向禍福思難已世之風行老不
車前驅病馬強免榮上應馬者存
事無成身老碎卿不主欲何歸
花臺收黃句踐乘扁舟銘又明
功伏孤忠之志
昇殿乞家外之張王作骨月
以諸事集之重堂事之天下

皇太子^{ミコ}廣^{ヒロ}孝^{タカ}子^コ以^ニ樂^{ラク}玉^{タマ}園^{エン}之^ノ月^{ツキ}
鈴^{スズ}聖^{セイ}社^{シャ}聖^{セイ}道^{ドウ}三^ミ代^{ダイ}之^ノ程^{ハカリ}沈^{シム}恨^ミ同^{ドウ}伯^{ハク}
密^{ヒツ}初^{ハツ}入^ニ曉^{トウ}之^ノ時^{トキ}也^{ナリ}

言^{コト}下^{カミ}暗^{カミ}生^{ナマ}消^{シユ}骨^{ハネ}久^{キウ}矣^{ナリ}市^シ倫^{リン}親^{シン}刺^シ之^ノ刀^{タガナ}
我^ガ兄^{ケイ}一^{イツ}車^{シャ}何^ニ足^{タラ}長^{チヤウ}夜^ヤ聖^{セイ}三^ミ道^{ドウ}未^ミ竟^{セウ}元^{ゲン}
整^{セイ}三^ミ同^{ドウ}確^{カク}終^{シュウ}行^{コウ}蓋^{カヘ}固^コ傳^{デン}友^{ユウ}創^{ソウ}未^ミ終^{シュウ}賢^{ケン}
多^タ少^{ショウ}之^ノ物^{モノ}也^{ナリ}乃^ハ之^ノ物^{モノ}也^{ナリ}乃^ハ之^ノ物^{モノ}也^{ナリ}乃^ハ之^ノ物^{モノ}也^{ナリ}

乃^ハ之^ノ物^{モノ}也^{ナリ}乃^ハ之^ノ物^{モノ}也^{ナリ}乃^ハ之^ノ物^{モノ}也^{ナリ}乃^ハ之^ノ物^{モノ}也^{ナリ}
乃^ハ之^ノ物^{モノ}也^{ナリ}乃^ハ之^ノ物^{モノ}也^{ナリ}乃^ハ之^ノ物^{モノ}也^{ナリ}乃^ハ之^ノ物^{モノ}也^{ナリ}
乃^ハ之^ノ物^{モノ}也^{ナリ}乃^ハ之^ノ物^{モノ}也^{ナリ}乃^ハ之^ノ物^{モノ}也^{ナリ}乃^ハ之^ノ物^{モノ}也^{ナリ}

其^{コノ}之^ノ矣^{ナリ}

鈞^{ケン}佩^{ヘイ}曉^{トウ}鐘^{シュウ}暮^モ鐘^{シュウ}風^{フウ}聲^{セイ}以^ニ報^{ホウ}有^{ユウ}一^{イツ}會^{カイ}
淺^{セン}塘^{トウ}之^ノ烟^{エン}之^ノ望^{ボウ}一^{イツ}道^{ドウ}風^{フウ}光^{クワウ}但^{タニ}意^イ看^{カン}
然^{シカ}以^ニ南^{ナン}諸^{シュ}矣^{ナリ}老^{ラウ}固^コ若^{ニク}報^{ホウ}持^チ子^シ孫^{ソン}矣^{ナリ}
吏^リ郡^{クン}何^ニ所^{ショ}穢^{タイ}中^{チュウ}者^{シヤ}純^{ジュン}初^{ハツ}出^{シュツ}世^{セイ}後^コ矣^{ナリ}

以之為方、物なるを、西の、後、物、
春、桃、子、た、開、日、杜、落、枝、桐、葉、落、何、
多、雪、花、田、の、終、株、花、桃、葉、未、終、眠、
而、和、露、難、付、寒、溫、難、料、為、未、事、也、
後江相公
涼、亦、亦、難、を、桂、曉、月、
先、は、園、中、を、雪、影、難、看、得、わ、枝、雪、
寒、園、物、外、を、事、さ、う、お、好、ま、う、は、ね、海、

四十二

終、終、終

因、其、後、を、時、乃、を、初、は、提、言、福、は、也、
乃、愈、い、い、米、と、一、一、ら、は、と、そ、り、あ、
た、乃、免、つ、こ、ぬ、よ、あ、ま、く、よ、ま、り、ぬ、と、
い、う、ら、ん、と、い、ひ、と、く、ら、う、う、な、う、う、か、
あ、り、ゆ、を、乃、月、と、ま、ら、い、て、つ、う、か、
素、性

終、終、終

男、恒

金

無、事、

親、所、存、を、お、も、わ、れ、る、福、あ、は、に、ん、を、ね、ま、
端、々、南、上、事、に、の、名、火、光、中、寄、り、身、

羅、龍

白、ラ

下

四十三

多し来むお似歳年人不同

未之問

生る必滅釋き来免梅檀松

後江相公

樂費を來天人程を又喜し日

約より新終世海言る為骨朽刻永

義孝少將

陸親林川中親來道も花を喜ぶ

後江相公

よの中とたふしとひわさり針

滿指法師

古中ハゆめうろくうほいとを
ゆえともさきとありてありきは

多しむきふあうやとれろ月うけ

と来乃つ好りとの屋の中乃

白

良僧正

奉白き為秋堂丹とて日馬の漢書

謝親

ゆえに種式と歸内務也

福のやうに木とて見林園の鳥

順ナハラ

毛髪飛海を浪を新はち咲花お

萬頃月邊江海客居處
霜初沙鷗落
あきさきしけくじめの花あり

和漢朗詠集卷下

延寶式部年九月吉日

開板

和漢朗詠集卷下

雜

風曉草

雲松鶴

晴竹依

菅笠

文詞

酒

山付山水

水付漫文

禁中

古京

古官付後

仙家付後

山家

田家

隣家

山寺

佛事

福

閑居

眺望

錢別

行旅

度軍

帝付注

親王

付王

丞相

付批

將軍

刺史

詠史

王昭君

妓女

遊女

老人

交友

懷舊

述懷

夢寐

祝

恩

無常

白

師承
張氏家
長史
張氏家
張氏家

曹根奇

賀傳次水之

十三